

成績表：昨年予測への採点

予測は誰でもできる。だが、過去の予測を再検討し採点するには、大勢のプロのライターが必要だ。昨年のホットなストレージ技術予測を、我々がどう評価したかを示す成績表が以下だ。

C+	次世代 半導体 ストレージ	我々は、一つの見出しのもとに二つの新しい技術、3D NANDとNon-Volatile Memory Express (NVMe) を一緒くたに扱った。どちらの技術に対しても関心は高いが、2014年に予測されたような普及はしていない。
B+	プライマリ ストレージ データ重複排除	半導体ストレージとIntelの途轍もなく強力なCPUを必要としたものの、我々は2014年ついにプライマリ・ストレージ重複排除が躍進する姿を見ることができた。
A-	ハイパー コンバージド ストレージ	ハイパーコンバージド製品については、実際以上に誇張された宣伝が混じっているが、このカテゴリーでは、ハードウェア、ソフトウェア、そしてそれらの考えられるすべての組み合わせが次々と登場し、注目を集めている。
B+	バックアップ アプライアンス	SymantecによるBackup Execアプライアンス製品の販売中止にもかかわらず、オールインワン型の機器は根強い人気があり、Dell、HP、Unitrends、StorServer、Barracuda以外にも新規参入が続いている。
C+	オープンスタック ストレージ	すさまじい量の議論がなされ、OpenStack APIを開発するストレージベンダーも増えてはきているが、実際に製品に実装されるケースよりも様子見のほうが多い。
B-	クラウド統合 ストレージ	クラウドサービスも透過的なティアとして連動するアレイ、というビジョンは時期尚早だったかもしれないが、EMCのTwinStrata買収およびMicrosoftのStorSimple買収があり、この連携は不可避である。